

科目	呼吸器（気道確保に係るもの）関連			
特定行為	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整			
時間数	10	講義8 OSCE1 試験1 実習		
概要	経口挿管、経鼻挿管管理の必要性や特徴を理解し、安全に管理するための基本的な知識を学ぶ。医師の指示の下、手順書により、身体所見（呼吸音、一回換気量、胸郭の上り等）及び検査結果（経皮的動脈血酸素飽和度（SpO2）、レントゲン所見等）等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、適切な部位に位置するよう、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの深さの調整を行うための知識・技術を学ぶ。			
目標	1. 呼吸器（気道確保に係るもの）関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、「経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整」の実施の 判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
学ぶべき事項	内容		方法	時間
1	（共通）呼吸器（気道確保に係るもの）関連の基礎知識	気道確保に関する局所解剖	講義	0.5
2		気管チューブの位置の調整に関する病態生理	講義	0.5
3		気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント	講義	0.5
4		気管挿管の目的、適応、禁忌、合併症	講義	0.5
5		気管チューブの種類と適応	講義	0.5
6		気管チューブによる呼吸管理	講義	0.5
7		バッグバルブマスクを用いた用手換気	講義	0.5
8	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	気管チューブの位置の調整の目的、適応、禁忌	講義	0.5
9		気管チューブの位置の調整に伴うリスク	講義	1
10		気管チューブの位置の調整の手技	講義	1
11		気管チューブの位置の調整の手技（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	1
12		気管チューブの位置調整中のトラブル対応（一部ペーパーシミュレーション・アセスメント・判断を取り入れた手技を含む（面接授業））	講義	1
13		経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技	OSCE	1
14	科目修了試験		試験	1
15	実習	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整 5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%		
	試験	90%以上		
	OSCE	総合点4以上		
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート		

科目	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連			
特定行為	(A) 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整			
	(B) 脱水症状に対する輸液による補正			
時間数	16	講義12.5 演習2 試験1.5 実習		
概要	絶食状態や消化管の使用が困難である場合、低栄養状態の患者あるいは、脱水症状の患者に対し、高カロリー輸液の投与や輸液の補正の必要性と適切な投与と管理について基本的知識を学ぶ。医師の指示の下、手順書により、身体所見（食事摂取量、栄養状態等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整を行うための知識と判断過程を学ぶ。医師の指示の下、手順書により、身体所見（食事摂取量、皮膚の乾燥の程度、排尿回数、発熱の有無、口渇や倦怠感の程度等）及び検査結果（電解質等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、輸液による補正を行うための知識と判断過程を学ぶ。			
目標	1. 「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の区分に含まれる特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける			
	2. 医師の指示のもと、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる			
	3. 医師の指示のもと、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「脱水症状に対する輸液による補正」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる			
	4. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
学ぶべき事項		授業内容	方法	時間
1	(共通) 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の基礎知識	循環動態に関する局所解剖	講義	0.75
2		循環動態に関する主要症候	講義	0.75
3		脱水や低栄養状態に関する主要症候	講義	0.5
4		輸液療法の目的と種類	講義	1
5		病態に応じた輸液療法の適応と禁忌	講義	1
6		輸液時に必要な検査	講義	0.5
7		輸液療法の計画	講義	1
8	(A) 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	低栄養状態に関する局所解剖、原因と病態生理	講義	0.75
9		低栄養状態に関するフィジカルアセスメントと検査	講義	0.5
10		高カロリー輸液の種類と臨床薬理および関連する栄養学	講義	0.5
11		高カロリー輸液の適応と使用方法	講義	0.75
12		高カロリー輸液の副作用とリスクおよびその対策	講義	0.5
13		高カロリー輸液の判断基準	講義	0.5
14		手順書に基づいた高カロリー輸液の判断	演習	1
15	(B) 脱水症状に対する輸液による補正	脱水症状に関する局所解剖	講義	0.5
16		脱水症状の原因と病態生理	講義	0.5
17		脱水症状に関するフィジカルアセスメントと検査	講義	0.5
18		脱水症状に対する輸液による補正に必要な輸液の種類と臨床薬理	講義	0.5
19		脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法	講義	0.5
20		脱水症状に対する輸液による補正の副作用とリスクおよびその対策	講義	0.5
21		脱水症状に対する輸液による補正の判断基準	講義	0.5
22		手順書に基づいた脱水症状に対する輸液による補正の判断	演習	1

23	科目修了試験		試験	1.5
24	実習	(A) 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 5症例		
		(B) 脱水症状に対する輸液による補正 5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%		
	演習	80%以上		
	試験	90%以上		
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート		

科目	術後疼痛管理関連				
特定行為	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整				
時間数	8	講義5.5 演習1.5 試験1 実習			
概要	術後疼痛管理の必要性やその特徴を理解し、硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整日について学ぶ。基礎知識をもとに、医師の指示のもと手順書により、身体所見（疼痛の程度、嘔気や呼吸困難の有無、血圧等）、術後経過（安静度の拡大等）と検査結果が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、実施を判断する過程を学ぶ。（患者自己調節鎮痛法（PCA）を除く）				
目標	1. 術後疼痛管理関連に含まれる特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見、術後経過、検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う				
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）				
講師	別紙「指導者一覧」参照				
	学ぶべき事項	内容	方法	時間	
	1	硬膜外麻酔に関する局所解剖と主要疾患の病態生理	講義	1	
	2	（共通）術後疼痛管理関連の基礎知識	硬膜外麻酔の目的、適応、禁忌	講義	0.5
	3		硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメントと検査（術前）	講義	0.75
	4		硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメントと検査（術後）	講義	0.75
	5		硬膜外麻酔に伴うリスク	講義	0.5
	6		硬膜外麻酔に用いる薬剤の選択と投与量	講義	0.75
	7	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	硬膜外麻酔における鎮痛剤の選択と投与量の調整方法	講義	0.75
	8	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与調整	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与調整の実際	講義	0.5
	9	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	演習	1.5
	10	科目修了試験	試験	1	
	11	実習	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整 5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%			
	演習	80%以上			
	試験	90%以上			
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート			

科目	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連			
特定行為	(A) 抗けいれん剤の臨時的投与			
	(B) 抗精神病薬の臨時的投与			
	(C) 抗不安薬の臨時的投与			
時間数	26	講義19 演習4.5 試験2.5 実習		
概要	精神及び神経症状のある患者に対し、適切に状態を評価し、安全な薬剤投与について基本的な知識を学ぶ。医師の指示の下、手順書により、身体所見（発熱の程度、頭痛や嘔吐の有無、発作の様子等）及び既往の有無等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗けいれん剤を投与するための知識とその判断過程を学ぶ。医師の指示の下、手順書により、身体所見（興奮状態の程度や継続時間、せん妄の有無等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗精神病薬を投与するための知識とその判断過程を学ぶ。医師の指示の下、手順書により、身体所見（不安の程度や継続時間等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗不安薬を投与するための知識とその判断過程を学ぶ。			
目標	1. 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける			
	2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び既往の有無等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「抗けいれん剤の臨時的投与」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる			
	3. 医師の指示の下、手順書により、身体所見等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「抗精神病薬の臨時的投与」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる			
	4. 医師の指示の下、手順書により、身体所見等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「抗不安薬の臨時的投与」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる			
	5. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
学ぶべき事項		内容	方法	時間
1	(共通) 感染に係る薬剤投与関連の基礎知識	精神科面接と所見の取り方・書き方	講義	0.75
2		精神系の局所解剖と生理・病態生理	講義	0.75
3		精神科における主要症状と状態像	講義	0.75
4		神経系の局所解剖と生理	講義	0.5
5		神経学的主要症候と神経疾患の病態生理	講義	0.75
6		主要な神経疾患のフィジカルアセスメント	講義	0.5
7		神経学的検査	講義	1
8		心理・精神機能検査	講義	1
9		主要な精神・神経疾患の治療薬の基礎（耐性・依存性を含む）	講義	0.5
10		主要な精神・神経疾患の治療薬の臨床薬理と副作用	講義	0.5
11	(A) 抗けいれん剤の臨時的投与	けいれんの原因・病態生理、症状・診断	講義	1
12		抗けいれん剤の種類と臨床薬理	講義	0.5
13		各種抗けいれん剤の適応と使用方法	講義	0.5
14		抗けいれん剤の副作用とリスク	講義	0.5
15		病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準	講義	1
16		病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準①	演習	1
17		病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準②	演習	1

18	(B) 抗精神病薬の臨時の投与	統合失調症の原因・病態生理、症状・診断	講義	1.5
19		抗精神病薬の種類と臨床薬理	講義	0.5
20		各種抗精神病薬の適応と使用方法	講義	0.5
21		抗精神病薬の副作用とリスク	講義	0.5
22		病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準	講義	1
23		病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準	演習	1.5
27	(C) 抗不安薬の臨時の投与	不安障害の原因・病態生理、症状・診断	講義	1.5
28		抗不安薬の種類と臨床薬理	講義	0.5
29		各種抗不安薬の適応と使用方法	講義	0.5
30		抗不安薬の副作用とリスク	講義	0.5
31		不安の診断と治療および抗不安薬の投与の判断基準	講義	1.5
32		病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準	演習	1
33	科目修了試験		試験	2.5
34	実習	抗けいれん剤の臨時の投与、抗精神病薬・抗不安薬の臨時の投与 各5症例		
評価	講義	全講義受講・確認テスト100%		
	演習	80%以上		
	試験	90%以上		
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート		